

(2) 社会

ア 個々の問題の概要及びその通過率

— 評価の観点 —			
思・判・表	:	社会的な思考・判断・表現	
技能	:	資料活用の技能	
知・理	:	社会的事象についての知識・理解	

(◇:「活用」に関する問題)

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の観点	A設定通過率(%)	B通過率(%)	AとBの比較			
3 ・ 4 学 年	(4)ア	1	(1)	交通事故が起きたときに警察にかける電話番号を理解している。		知・理	90	68	↓	
			(2)	資料が示す状況から、事故現場で働く警察の仕事の表現することができる。	◇	思・判・表	60	68	↑	
			(3)	写真の様子から、まちの安全は地域の人々も協力していることを表現することができる。		思・判・表	50	69	↑	
	(2)ア	2	(1)	スーパーマーケットで働く人の写真に合う文を選択することができる。		技能	90	89	—	
			(2)	①	スーパーマーケットの入り口の近くに、障害のある人等を対象とした駐車場がある理由を説明することができる。	◇	思・判・表	55	74	↑
				②	複数の資料からそれぞれの特徴を読み取り、共通点を文章で表現することができる。	◇	思・判・表	50	48	—
	(1)ア	3	(1)	まちの様子を調べる時に会った人への質問の仕方として不適切な資料を選択し、その理由を説明することができる。	◇	思・判・表	60	90	↑	
			(2)	まち見学の様子をふりかえるカードが示す場所が地図上のどの地点に当たるのかイメージし、指摘することができる。	◇	思・判・表	50	73	↑	
			(3)	地図上にかかれた不適切と考えられる地図記号を指摘し、その理由を説明することができる。	◇	思・判・表	50	64	↑	
	(5)ウ	4	(1)	水が流れる様子から、4地点の土地の高さを指摘することができる。	◇	思・判・表	30	16	↓	
			(2)	①	資料から読み取った水田の面積から、面積が何倍増加したのか指摘することができる。	◇	技能	55	44	↓
				②	巨瀬川から取水できない理由を台地と関係付けて表現することができる。※これのみ第5学年の内容(1)イ	◇	知・理	30	23	↓
(6)イ	5	(1)	等高線を基に土地の傾きの方向を読み取り、川の流れる方位を指摘することができる。		技能	70	54	↓		
		(2)	川の流れの緩急を判断するには、等高線の間隔に着目するとよいことを説明することができる。	◇	思・判・表	60	23	↓		
		(3)	条件に該当する断面図を指摘することができる。	◇	技能	50	37	↓		
(6)イ	6	(1)	※調査問題の内容に間違いがあったため、採点、集計の対象から除外しています。							
		(2)	任意の市について説明する情報と2つの資料を比較・関連付けし、任意の市の名称を指摘することができる。	◇	思・判・表	60	52	↓		
5 学 年	(1)イ	7	(1)	福岡県と青森県の桜の開花の日数の違いを指摘することができる。		技能	90	73	↓	
			(2)	資料が示す内容を使って、季節風の意味を指摘することができる。		技能	50	33	↓	
			(3)	八戸市の降雪が少ない理由を、2つの資料を関連付けながら説明することができる。	◇	思・判・表	40	40	—	
	(2)イ	8	(1)	①	資料を用いて、適切な県名を指摘することができる。		知・理	60	75	↑
				②	資料を用いて、適切な県名を指摘することができる。		知・理	70	81	↑
			(2)	気温のグラフを読み取ることによって、りんごとみかんの生産がさかんな地域の気候の違いを指摘することができる。		思・判・表	60	47	↓	
	(3)	農業生産が気候などの自然環境と深い関わりがあることを指摘することができる。		知・理	60	53	↓			
	(1)ア	9	(1)	経緯度によって、地球上の正確な位置が求められることを指摘することができる。		知・理	80	65	↓	
			(2)	オーストラリア大陸の地球儀上の位置を、日本との位置関係も踏まえて指摘することができる。		技能	60	32	↓	
(3)			地球儀上に示した海洋の名称を指摘することができる。		知・理	70	60	↓		
(4)			異なる方向から見た地球儀に示された情報から、いずれにも描かれていない大陸を指摘することができる。	◇	技能	50	59	↑		

A設定通過率とB通過率を比較する際は、下記により判断する。  
+5%より上の場合:「↑」 ±5%の範囲内:「—」 -5%より下の場合:「↓」

評価の観点	思・判・表	技能	知・理
A設定通過率	52	64	66
B通過率	55	53	61

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内				
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡		
1	(1)	110番通報の理解	90	68	68	71	69	71	71	64
	(2)	事故現場で働く警察の仕事の指摘	60	68	68	69	72	72	78	68
	(3)	地域住民の協力による安全確保の指摘	50	72	72	68	73	73	72	73
2	(1)	店で働く人の仕事の指摘	90	89	89	89	90	89	91	90
	(2)	① 条件に該当する駐車位置の説明	55	74	74	71	71	70	73	71
		② 環境に配慮した取組の指摘	50	47	47	37	48	51	58	38
3	(1)	インタビュー調査のマナーの指摘	60	91	91	91	89	89	88	89
	(2)	条件に該当する地図上の位置の指摘	50	71	71	72	74	73	78	73
	(3)	条件に該当する地図記号の指摘	50	63	63	66	71	71	74	70
4	(1)	川の流れに基づく土地の高低の指摘	30	15	15	9	14	13	18	13
	(2)	① 水田面積の変化の割合の指摘	55	43	44	35	45	41	50	43
		② 川と台地の高さの関係の指摘	30	23	23	17	23	22	24	23
5	(1)	等高線に基づく流水方位の指摘	70	53	53	52	59	58	68	54
	(2)	等高線に基づく流水の緩急の指摘	60	21	21	20	30	31	32	26
	(3)	等高線の断面図の読み取り	50	38	38	42	44	45	49	38
6	(1)	※調査問題の内容に間違いがあったため、採点、集計の対象から除外しています。								
	(2)	条件に該当する市の指摘	60	54	54	51	55	56	60	50
7	(1)	2地点の桜の開花時期の差の指摘	90	73	72	80	77	79	81	73
	(2)	季節風の意味の説明	50	29	29	30	40	41	46	35
	(3)	太平洋側で少雪となる理由の指摘	40	37	37	34	45	42	46	46
8	(1)	① 条件に該当する県名の指摘	60	74	74	67	77	78	80	74
		② 条件に該当する県名の指摘	70	80	80	80	83	83	88	79
	(2)	2地点の気温差の指摘	60	47	47	48	50	49	55	47
	(3)	農業生産に適する自然環境の理解	60	52	51	74	59	63	62	51
9	(1)	緯度・経度の意味の理解	80	63	64	57	66	60	73	68
	(2)	条件に沿った大陸の位置の説明	60	29	30	25	36	28	47	35
	(3)	条件に該当する海洋名の理解	70	61	61	60	67	64	67	68
	(4)	条件に該当する大陸名の指摘	50	57	57	50	61	58	67	60
教 科 全 体			59	55	55	54	59	58	63	56

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内		県全体	
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
63	64	67	57	58	72	73	72	71	62	66	46	71	72	67	68
67	63	79	69	69	74	78	66	75	54	51	63	67	66	73	68
67	65	78	68	64	68	78	58	68	68	68	68	65	66	63	69
89	89	92	91	87	90	88	92	90	91	93	88	89	89	88	89
73	71	81	76	77	74	80	75	70	72	74	64	77	77	77	74
51	48	58	59	47	46	59	42	40	42	47	28	50	52	41	48
89	88	93	90	88	92	93	92	90	85	88	78	91	92	88	90
73	72	75	76	72	76	77	74	76	73	75	64	73	72	74	73
64	60	76	71	63	69	72	70	67	61	63	54	61	61	58	64
17	16	18	19	16	17	19	18	15	9	10	4	19	20	18	16
43	44	41	47	37	50	48	54	49	43	47	27	41	41	41	44
22	21	20	27	22	22	27	18	21	25	26	23	23	24	18	23
53	52	57	55	53	55	58	52	54	51	54	38	53	53	53	54
22	19	33	24	20	28	27	34	27	23	24	18	19	19	19	23
36	38	37	29	30	38	37	41	37	40	42	31	35	34	36	37
※調査問題の内容に間違いがあったため、採点、集計の対象から除外しています。															
53	55	55	50	45	51	53	53	49	55	57	46	49	50	46	52
74	76	75	67	69	73	74	74	72	72	75	60	72	72	70	73
35	33	56	32	30	32	41	31	27	31	29	41	33	32	35	33
41	39	61	38	36	40	46	37	37	39	41	34	41	41	44	40
77	77	80	75	74	74	78	75	71	71	73	64	76	77	75	75
82	82	88	80	79	81	83	84	80	77	79	70	81	82	80	81
47	46	51	48	41	48	51	54	43	41	43	31	47	49	40	47
55	53	65	55	51	57	58	58	56	43	40	52	48	48	49	53
65	64	70	70	63	69	73	69	67	63	64	58	64	65	64	65
28	27	31	29	29	35	41	33	33	27	30	14	34	36	27	32
59	60	60	56	49	61	64	59	59	57	58	52	57	58	52	60
57	60	58	50	50	63	65	64	60	56	60	44	60	60	60	59
56	55	61	56	53	58	61	57	56	53	55	47	55	56	54	56

※通過率(%)は、「総正答数/総解答数」で算出した数値の小数第1位を四捨五入した整数値で表しています。

ウ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号		通過率(%)	主な誤答例(無答を含む) (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、調査全体の誤答の割合とは異なる)
1	(1)	68	119 (26.0)、117 (0.5)、199 (0.5)、通信指令室 (0.5)
4	(1)	16	A C B D (33.0)、C B D A (11.5)、D B C A (9.0)、C A B D (5.5)、D C B A (3.0)、A B D C (2.0)、C B A D (2.0)
4	(2)②	23	無答 (14.0)、土地が低く (8.5)、水を引くことが難しく (8.5)、用水路 (5.5)、筑後川と巨瀬川の間 (4.0)、家がたくさんある (3.0)、山みたいに (2.5)
5	(2)	23	無答 (9.5)、等高線 (9.0)、父川の方がゆるやか (2.5)、等高線の間隔が広い (2.0)、高い土地から流れている (2.0)、土地が高い (2.0)、300 m から流れている (1.5)
5	(3)	37	イ (48.5)、ア (13.0)、B (1.5)、無答 (1.0)、A (0.5)
7	(2)	33	季節の (12.0)、しめったりかわいたり (11.5)、無答 (9.5)、日本海と太平洋からふく (4.5)、夏と冬にふく (3.5)、季節が変わる (3.0)、気候を変える (2.5)
9	(2)②	32	北 (9.0)、無答 (6.5)、下 (1.5)、西 (1.5)、下北 (1.0)、地球が (1.0)、赤道 (1.0)
	(2)③		0と90以外の数字 (19.0)、緯 (11.5)、無答 (8.5)、0 (7.0)、90 (5.5)、角 (5.5)、温 (1.0)

- 1(1)では、誤答の原因として、資料の吹き出しと矢印の関係から、通報先の通信指令室が県の警察本部にあることを正確に読み取ることができなかったことが考えられる。
- 4(1)では、誤答の原因として、資料1を真上からの視点で捉え、矢印が示す川の流れて判断したのではなく、資料1を真横からの視点で捉え、判断したことが考えられる。
- 4(2)②では、誤答の原因として、資料2とまことの吹き出しに示した「中央台地」の文言から、五庄屋の村が高台にあることを読み取れなかったことが考えられる。
- 5(2)では、誤答の原因として、無答を含め、誤答の種類が多岐にわたることから、等高線の間隔と傾斜の関係を正しく理解していなかったことが考えられる。
- 5(3)では、誤答の原因として、兄山と妹山のA=Bが示す部分がニコブとなることは読み取れてはいるものの、地図資料を正確に読み取ったり、似ている内容の選択肢の違いを比較できなかつたりしたことが考えられる。
- 7(2)では、誤答の原因として、用語の説明に必要な言葉を落としていたり、必要な言葉は落ちなく取り上げたものの意味のおおらない説明が見られたりすることから、用語の理解が十分ではないこと、自分の言葉で書く力が不足していることが考えられる。
- 9(2)②及び③では、誤答の原因として、地球儀上での方位や緯度経度の理解が十分ではないことが考えられる。

## エ 今後の指導について

### ○課題の見られた問題 7(2)

### ○出題のねらい

資料から必要な情報を選別して読み取り、季節風の意味を説明する問題である。平成29年度の分析において、各種資料を効果的に活用する技能に課題が見られたため、資料に示された言葉やイラスト等の状況から必要となる情報を読み取り、説明する問題とした。

### ○分析結果と課題

分析の結果、学習上の課題解決につながる有用な情報を、資料から適切を選んで読み取る技能、読み取った情報を受け手に分かりやすく説明する力が不足する児童が多数であった。原因として、用語理解の不足から、季節風の風向が異なる2枚のイラスト図を季節に応じて読み取ることができなかったことが考えられる。課題として、資料から課題解決に必要な情報を選択して読み取り、それを基に事象を説明する力が不足していると考えられる。

### ○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、児童に調べる目的を意識させて、2つ以上の情報を比較・関連付けながら読み取らせ、それらを総合する活動を対話的に行うことが大切である。

## 指導例

### 複数の資料から情報を読み取り説明する力を養う指導 ～単元名「わたしたちの国土」(第5学年)～

#### 【指導の流れ】

- 1 同じ3月でも緯度によって気候が違うことを複数の資料を比較して読み取り、日本の気候の特色を調べる学習問題を設定させる。

**学習活動** 国内各地の3月の様子を比べ、気候が違う理由を話し合う。



この2枚の写真は沖縄県と福岡県の3月の様子です。どちらが沖縄県で、どちらが福岡県だと思いますか。

[写真]  
沖縄県の3月  
(海水浴、半袖)

[写真]  
福岡県の3月  
(桜の開花)



南の沖縄は早く暖くなるから、海水浴が沖縄県だと思います。

福岡県は沖縄県よりは北にあるから、桜の開花が福岡県だと思います。



同じ3月なのに、日本の中でどうしてこんなに気候が違うのか不思議です。

同じ3月なのに、なぜ日本の中で気候が違うのだろう。



南は緯度が低くて気温が高い、北は緯度が高くて気温が低いイメージがあります。日本の国土は南北に長いから、同じ3月でもだいぶ気候が違うんだと思います。



では、新潟県と宮城県の3月の写真も見てください。どちらが新潟県で、どちらが宮城県か分かりますか。

[写真]  
新潟県の3月  
(残雪)

[写真]  
宮城県の3月  
(雪がない)



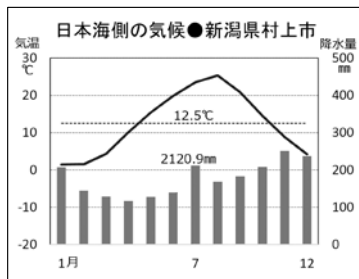
地図を見ると、どちらも同じくらいの緯度なのに、同じ3月の雪の量が違うなんて不思議です。

#### ポイント

異なる情報を比較(時期や範囲の異なる地域の様子など)しながら読み取らせることで問題を見付け、同時に問題解決に必要な情報は何か見通しを立てさせる。

## 2 複数の資料を関連付けて読み取り、日本の気候の特色の概要をつかませる。

**学習活動①** 日本の気候区分とその説明文、代表的な雨温図を結び付ける。



日本の気候は、下の地図のように6つに区分されています。気候区分ごとの説明文を読みながら、下の雨温図と気候区分を結び付けてみましょう。



[雨温図] (新潟県)  
日本海側の気候

[雨温図] (宮城県)  
太平洋側の気候

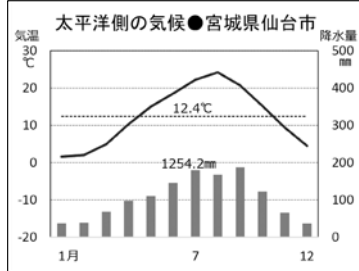
[雨温図] (沖縄県)  
南西諸島の気候

教科書に掲載されている日本の気候区分を塗り分けた地図とそれぞれの気候区分の説明文を提示する

[雨温図] (北海道)  
北海道の気候

[雨温図] (長野県)  
中央高地の気候

[雨温図] (香川県)  
瀬戸内海の気候



グラフを見て、雪がある写真が新潟県だと分かりました。

日本海側と太平洋側の気候は、区別しやすいね。



**学習活動②** 気候区分と季節風の説明図を関連付けて読み取り、太平洋側と日本海側で気候が異なる理由を話し合い、まとめる。



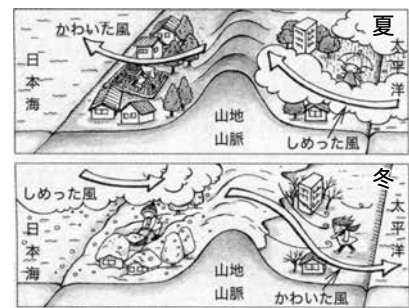
村上市と仙台市は緯度を比べるとほとんど同じなのに、気候区分が異なるのはなぜでしょう。



日本海側の村上市では、冬に雪が多くふります。日本海側からふく冬の冷たくしめった季節風が奥羽山脈にぶつかるときに、雪をふらせませす。



太平洋側の仙台市では、冬に奥羽山脈から乾いた季節風がふくから、雪が少なくなります。



### ポイント

雨温図、季節風の向きや状態などの異なる情報を関連付けながら、事象の原因について話し合わせたり、説明させたりする。

○課題の見られた問題 4(1)、4(2)②、5(2)、5(3)

○出題のねらい

地図に示された川の水が流れる方向から土地の高さを推測したり、等高線の間隔から川の流れの緩急を判断したり、地形の断面図を指摘したりする問題である。平成29年度の分析において、土地の高さの捉え方が十分でなかったことから、地図、用語、流水の様子等、様々な観点で地形を読み取る問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、土地の様子を示す用語の理解や、等高線を読み取る技能が十分身に付いていない児童が多数であった。原因として、用語や等高線を活用する場面が少ないことが考えられる。課題として、等高線をもとに実際に模型を作ったり、それを展示して日常的に確認したりするなど、折に触れて、視覚的に等高線の様子を捉える経験が不足していることが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、地図資料の見方や等高線について理解するための技能を視覚的・

体験的に身に付けさせる学習を進めていく。鳥瞰図で土地の高さについて捉えさせ、等高線で川の流れと土地の高さの関係について捉えさせていく。等高線については、模型を作ったり、間隔に着目したりして立体的に捉えさせることで、土地の高さを意識させるようにする。

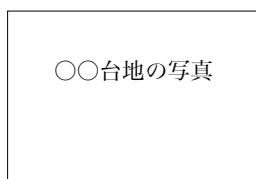
## 指導例

### 等高線と地図が示す土地の様子をより詳細に考えさせる指導 ～単元名「きょう土のはってんにつくす」(第4学年)～

#### 【指導の流れ】

1 ○○台地の写真や鳥瞰図から、川や用水路の流れる方向に疑問をもたせる。

**学習活動①** ○○台地の写真から、地形の高低差を捉える。



○○台地の写真



田んぼは台地という高いところにもあるね。川はどうかかな？

川は低いところを流れているように見えます。



この台地の田んぼには、どこから水が来ているのかしら。



では、鳥瞰図を見てみましょう。鳥瞰図は地図を空から見たように描いた図です。最初の写真も含めた台地の図になっています。台地には、人が作った用水路が流れています。



この用水路の水は、どこから来て、どこへ流れているのかな。



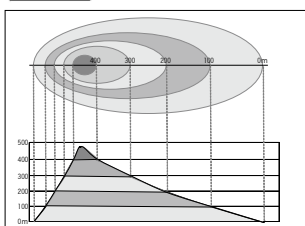
用水路の流れを判断するために土地の高さに注目してみましょう。土地の高さは、等高線で調べることができます。

○○台地の鳥瞰図

**学習活動②** 等高線について、積み木を使って確認する。



等高線は、土地を真上から見て、同じ高さを線で結んだ図です。等高線の高さに合わせて、積み木をのせてみましょう。



積み木一段ごとに高さが100mずつ違うよ。



あれっ、横から見ると傾きが違うなあ。えんぴつを使って傾きを確認してみよう。



本当だ！等高線の間隔がせまい方が傾きが急になっていて、間隔が広いと傾きがゆるやかになっているよ。



等高線と等高線の間は、傾きがあります。等高線の間隔の広さによって、傾きが急になっているか、ゆるやかになっているかが分かるので、積み木を真横から見て、山の傾きを確認しましょう。これを図で表したものを、断面図といいます。



#### ポイント

等高線については、積み木などを使って土地の高さを立体的に表して比べさせる。その際、えんぴつを使って傾き具合を視覚的に捉えさせたり、積み木に色画用紙をのせて等高線の間隔と傾きの関係を示して断面図についても捉えさせたりする。

2 ○○台地の地図を使って、等高線を確認しながら土地の高さや川の流れる方向を調べさせる。

**学習活動①** ○○用水の地図を使って川の流れる方向を確認する。

○○台地の地図 (等高線)

等高線を見ると川から台地までの高さは400m違うんだね。

400mの違いを建物で表すと、だいたい100階建てのビルと同じくらいの高さになります。

え、ビル100階。低い場所にある川からは絶対に水は引けないです。どうやって水を引いているんだろう。





では、川を下から指でなぞってみましょう。

上に行くにつれて、周りの地図の色が濃くなっていくね。

最後までなぞると取り入れ口と書いてあって、ここから用水路が始まっているよ。水は、ここから取り入れているのかな。

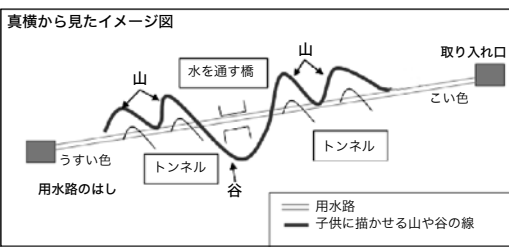
取り入れ口から用水路をなぞると土地の色が薄くなるし、通潤橋という橋があるよ。それに途中で用水路が点線になっているよ。

土地の色が濃い色から薄い色になっていくのは、土地がだんだん低くなっているということです。通潤橋にも、点線のところにも水が流れています。どういことでしょうか。

**学習活動②** 用水路が流れる場所の実際の土地の様子を、山や谷の線の描き込みで捉える。

点線のところにも水が流れているということは、もしかしてトンネルかな。







そのとおりです。トンネルを掘ったり、通潤橋をかけたりしないと水が流れないのは、地形がどうなっているからだと思いますか。予想して描いてみましょう。

トンネルで水を流すのは山があるからで、橋で水を流すのは谷になっているからだと思います。

等高線の色は細かく分かれていないけれど、凸凹していたのかな。

等高線では同じ色でも、実際には凸凹しています。50mの間隔で引かれた等高線は、建物で考えると15階くらいの高低差があります。取り入れ口から田んぼまで水を流すために、トンネルや橋を作ること凸凹をならしているんですよ。

**ポイント**

河川をさかのぼると、土地が高くなっていくことを土地の高さを示す色や数値から確認させる。そして、用水路は取り入れ口から低いところへ水が流れていることを確認させる。

また、用水路上に水を通す橋やトンネルがある理由を地図から捉えさせるために、地図を真横から見たイメージ図を示し、山や谷を描き込ませることで、土地の高さに着目させる。加えて、地図上で同じ高さとして示された土地であっても、実際には高低差があることを捉えさせる。

3 本時の学びの振り返りをノートにまとめさせる。